

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.68 2011年4月号

2011年3月11日という日は今後永く記憶される日となることでしょう。今回のいわゆる東北関東大震災では、3月末現在、1万人以上の死者と2万人近い行方不明者を出し、届け出されていない人まで含めると、最終的にどれほどの犠牲者が出るかわからないぐらいです。15年以上前に起きた阪神淡路大震災と比べてもまさにケタ違いの被害となるのは間違いなく、津波による被害の恐ろしさをまざまざとみせつけられる地震となりました。また今回の被害は地震と津波による直接的なものでは終わらず、福島原子力発電所からの放射能漏れという、世界を驚かせる事態まで起きてしまい、こちらも3月末現在ではどのように収束するのか、まったくわからない状況です。

関東圏への電力供給能力が大幅に失われた結果、首都圏でもエリアごとに時間を区切って停電させる計画停電が行われ、一般家庭はもちろん、企業活動への影響も計り知れないものとなっています。製造業では製品の生産量を大幅に減らさざるをえず、停電しないまでも、節電のためにあらゆる業種で営業時間の短縮などが行われている結果、震災前と比べて経済活動が停滞するのは避けられません。そのため、今後倒産する企業が増えることも予想され、一部の業種では特需があるにしても、不況が深刻化するの間違いなさそうです。まさに、戦後の日本が経験したことのない試練を今、迎えているのかもしれない。

一方で、こうした危機に直面したときの私たち日本人の対応には世界から称賛の声もあがっています。通常であればもっと起きてもいい略奪などが起こらず、トイレや給水に整然と列を作って我慢強く待つ姿勢に、「怒号もけんかもない強い国」とか、「被害の中でも規律を保っている」と海外では報道されているそうです。ふだん、反日感情の強い中国でも、「たとえGDPで逆転しても、こうしたマナーの良さは中国では真似できない。」という声まであるそうですから、日本人としては誇りに思わずにはいられません。

敗戦によって何もかも失った状態からアメリカに次ぐ世界第2位の経済大国にまでのぼりつめた私たち日本人には、今も底力があると私は信じています。今回のような大きな危機もきっと乗り越えて、以前の生活に戻る日はそう遠くないに違いありません。
がんばれ、日本！　がんばれ、東北！

